

## 1. 教育目標

放射線医学は全領域にわたる広範な学問であり、まずその全貌を概観し、その現状と現在の課題を探ります。その後、画像診断学とその応用であるインターベンショナルラジオロジー及び放射線治療の大きな3つの柱の中で新しい画像診断法の開発、核医学・PETに於ける新しい診断法の開発、新しいインターベンショナルラジオロジー治療法の開発、手技的工夫、或いはIVR臨床成績の解析、放射線治療の臨床成績の解析からの問題点の探求等の研究を行い臨床放射線医学の研究者を養成することを目標とします。

## 2. 到達目標

- (1) 画像診断に関する基礎的な研究手法を修得することができる。
- (2) 画像診断に関する臨床的な研究手法を修得することができる。
- (3) 放射線診断手技の治療的応用（インターベンショナルラジオロジー）に関する研究手法を修得することができる。
- (4) 放射線治療に関する基礎的研究及び臨床的応用に関する研究手法を修得する。
- (5) 核医学に関する基礎的研究及び臨床的応用に関する研究手法を修得する。

## 3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

- (1) 期末に行う口頭試問により、放射線医学全般にわたる知識を評価する。（70%）
- (2) 学位論文の作成過程で発表会を開催し、進捗状況を評価する。（10%）
- (3) 研究ノートを定期的に確認し研究の進行状況を判定する。（20%）

## 4. 教科書・参考書

IVR マニュアル 第3版 医学書院  
必要に応じて参考資料等を配布する。

## 5. 準備学習

毎回の講義・実習前に担当教官の指示に基づく論文・成書を熟読しておく。都度、復習を行う。（各1時間程度）

## 6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

## (第1学年・昼間開講)

## 【放射線医学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	加古講師	月曜/5限	半年	2	8-B 読影室
講義	CT・MRI 画像診断学とその適応	河中助教	火曜/3限	通年	4	8-B カンファレンスルーム
実験 実習	放射線治療関連の基礎実験	富士原准教授	木曜/ 3・4限	通年	4	放射線 治療室
実験 実習	IVR の手技の実際	高木准教授	金曜/ 3・4限	通年	4	血管造影 検査室

## (第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 実習	IVR の手技の実際	山門主任教授 小笠原助教	月曜/6・7	通年	4	血管造影 検査室
講義	CT・MRI 画像診断学とその適応	河中助教	水曜/6限	通年	4	8-B カンファレンスルーム
実験 実習	放射線治療関連の基礎実験	富士原准教授	木曜/ 6・7限	通年	4	放射線 治療室
演習	IVR 関連の文献の抄読	加古講師	金曜/ 6限	半年	2	8-B カンファレンスルーム

## (第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 実習	臨床核医学の実際	北島准教授	火曜/ 3・4限	通年	4	核医学 PET センター
講義	小児の CT・MRI 画像の実際	山門主任教授	水曜/2限	半年	2	8-B カンファレンスルーム
演習	エコー・CT と MRI を中心とした症例 検討	小笠原助教	水曜/3限	半年	2	8-B 読影室
実験 実習	高精度放射線治療の実際	富士原准教授	木曜/ 1・2限	通年	4	放射線 治療室
演習	文献の抄読・臨床報告及び研究発表	山門主任教授	金曜/4限	通年	4	8-B カンファレンスルーム

## (第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験 実習	高精度放射線治療の実際	富士原准教授	月曜/ 6・7限	通年	4	放射線 治療室
実験 実習	臨床核医学の実際	北島准教授	火曜/ 6・7限	通年	4	核医学 PET センター
演習	エコー・CT と MRI を中心とした症例 検討	小笠原助教	水曜/6限	半年	2	8-B 読影室
講義	小児の CT・MRI 画像の実際	山門主任教授 河中助教	木曜/6限	半年	2	8-B カンファレンスルーム
演習	文献の抄読・臨床報告及び研究発表	山門主任教授 高木准教授	金曜/6限	通年	4	8-B 読影室